

トピックス

東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」(SARS) 関連情報 (第 3 報)

今年の 2 月中旬以降、ベトナムのハノイ、香港などで、原因不明で重篤な急性呼吸器感染症が流行しています。これまでに、2,223 名の患者(疑いを含む)(中国本土で 1,190 人、香港で 708 人、シンガポールで 95 人、ベトナムで 58 人、カナダで 58 人等)と少なくとも 78 名の死亡者が発生しています(4 月 2 日現在 WHO(世界保健機関))。WHO は、この原因不明の感染症に関して、3 月 13 日に世界各国に「緊急渡航情報」を発信し、病気の特徴などを公表し、その後も情報の更新を継続し注意を呼びかけています。我が国の厚生労働省でも WHO の情報を受け、全国の自治体、医療機関等に関連情報を伝え、疑わしい患者の発生報告を依頼し、3 月 28 日までに 11 例(「疑い例」(9 例)、「可能性例」(2 例))が報告されており、3 月 26 日開催された厚生労働省の SARS 対策専門委員会により、「疑い例」(7 例)、「可能性例」(1 例)が SARS ではないと判定されました。その他の 3 例については、症状が軽快し SARS である可能性は低いと考えられています。



現在までのところ、確認されたほとんどの患者が、患者の医療に携わった医師、看護師などの医療従事者、それに患者と同居している家族に限られています。新聞報道等では、香港のマンションの住人に多数の患者が発生し、隔離命令が出されていますが、これはこのマンションに限定された特殊な例であり、何らかの現在分かっていない原因が加わり集団発生が起こったものと考えられています。可能性は非常に低いものの、我が国から香港や中国本土、それに、ハノイ、シンガポールなどへの渡航者が非常に多いことを考えると、我が国にこの重症急性呼吸器症候群が侵入する可能性も考えておく必要があります。前述の地域(香港、ハノイ、シンガポールなど)に滞在した後 2 週間以内.....現時点で WHO は潜伏期を 2 ~ 7 日としています....に疑わしい症状を示しているヒト、それに、それらヒトを診療する各医療機関においては、下記の WHO の症例定義を参考にして、適切な対応を取ることが強く勧められます。

原因不明の重症急性呼吸器症候群の症例定義

○ 疑いのあるもの

2003年2月1日以降に以下の全ての症状を示して受診した患者で

- ・ 38度以上の発熱
 - ・ 咳、息切れ、呼吸困難感などの呼吸器症状
- かつ、以下のいずれかを満たす者
- ・ 原因不明の重症急性呼吸器症候群の発生が報告されている地域(*)へ旅行した者
 - ・ 原因不明の重症急性呼吸器症候群の症例を看護・介護するか、同居しているか、濃厚接触するか、患者の気道分泌物、体液に触れた者

* WHOによる4月2日現在の発生地域(地域内での伝播が確認され、WHOに公式報告された地域)は以下のとおりです。
香港、シンガポール、ハノイ(ベトナム)、トロント(カナダ)、台湾、中国(広東省、山西省)

○ 可能性のあるもの

上の「疑いのあるもの」のうち、

- ・ 胸部レントゲン写真で肺炎、または呼吸窮迫症候群の所見を示す者

○ 予防方法

- ・ WHOは4月2日、香港と中国広東省への渡航延期を勧告しました。また、米国CDCは香港、中国本土、ハノイ(ベトナム)などへの渡航に関し、絶対的な必要性がないかぎり延期を考慮するようとしています。
- ・ 原因は今のところ確定されていません。しかしながら、4月1日のWHO報告によるとインフルエンザではなく普通のかぜの原因となるウィルスの1つであるコロナウイルスの新種が主因と考えられており、検査法の研究も進んでいます。今まで、麻疹(はしか)やおたふく風邪の原因となるウイルスが属するパラミクソウイルスの新種の可能性も指摘されてきました。いずれにしても、医師や看護師、それに患者と同居する家族など患者との濃厚接触者から多くの患者が発生していることを考えると、うがいや手洗いの励行など、一般的な衛生状態の保持は有効だと考えられます。
- ・ WHOは3月27日、国際旅行に関して新しい拡大防止策を勧告し、その中でWHOにより発生が公式に確認された地域(4月1日現在、香港、シンガポール、ハノイ(ベトナム)、トロント(カナダ)、台湾、中国(広東省、山西省))から、他の国へ出発する航空機の搭乗客へのインタビューを含むスクリーニング(発熱等の症状の有無の確認)を実施し、有症者には回復するまで旅行を延期するよう助言しうると公表しました。

* なお、感染源、病原体の確定など新たな情報が入り次第、再度この週報トピクスで皆様にお知らせします。

参考

WHO (<http://www.who.int/en/>)

Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) を参照してください。

厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/index.html>)

東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」関連情報

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1.html>) および

伝播確認地域 (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1e.html>) を参照してください。

感染症情報センター (<http://idsc.nih.gov/index-j.html>)

緊急情報 重症急性呼吸器症候群

(<http://idsc.nih.gov/others/urgent/update.html>) および

伝播確認地域 (<http://idsc.nih.gov/others/urgent/area-02.html>) を参照してください。

流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 *レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症

定点当たりの報告数は0.9(前週1.1)と**やや減少**

感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は6.7(前週7.2)と**やや減少**

水痘(みずぼうそう)

定点当たりの報告数は2.1(前週1.9)と**やや増加**

咽頭結膜熱 発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

定点当たりの報告数は0.04(前週0.05)と**やや減少**

インフルエンザ

定点当たりの報告数は1.6(前週2.5)と**やや減少**していますが、定点の先生方からのコメントでは、インフルエンザB型の報告が目立ちます。

厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ

インフルエンザQ&A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。

<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>



感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 2歳男、9歳男

病原性大腸菌O20 1歳女

【尾西市 城後小児科】

感染性胃腸炎がやや目立つ。

他に、水痘、伝染性紅斑、手足口病、流行性耳下腺炎など認められる。

【一宮市 後藤小児科医院】

乳幼児の嘔吐、下痢が目立ってきましたが、総数は減少傾向にあります。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎の流行続いています。
溶連菌感染症小流行
インフルエンザ 4 名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

ウイルス性胃腸炎多い
溶連菌も散発
インフルエンザ 5 例、すべて B 型

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

1 歳 5 ヶ月女 ロタウイルス (+) でした。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

インフルエンザ 1 例のみ (B 型)
水痘、溶連菌感染症増加傾向です。
マイコプラズマ感染症も成人、小児共に多くみられます。
今週は発熱、嘔吐、下痢を主訴に受診する症例が目立ちました。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

流行性耳下炎腺が増加しています。
ロタウイルス胃腸炎も多くみられます。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

胃腸かぜ流行つづいています。
インフルエンザ 5 例 (全例 B 型)

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ロタウイルス胃腸炎多し
インフルエンザほとんどみられなくなる。

【小牧市 小牧市民病院】

マイコプラズマ肺炎 3 歳男、1 歳女、1 歳男 2 人

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

< 月報性感染症コメント >

来院・治療を促すが危機感がなく、なかなか治療がすすまない。

【東郷町 医療法人バク諸輪診療所】

尖形コンジローム 感染源不明例

【春日井市 タカマ皮膚科】

西三河地区

5 ヶ月男、1 歳男 2 名 ロタウイルス抗原 (+)

5 歳男 B 型インフルエンザ

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

インフルエンザ 2 名

【豊田市 田中小児科医院】

ロタウイルス腸炎流行
4歳女 マイコプラズマ肺炎

【豊田市 医療法人やふそ小児科】

1歳女、7ヵ月女 ロタ
10歳男 病原性大腸菌 08
11歳女 病原性大腸菌 01

【岡崎市 医療法人深田小児科】

2歳男 病原性大腸菌 0125
2歳男、2歳女 病原性大腸菌 01(+)
3歳男 病原性大腸菌混合 025

【岡崎市 花田こどもクリニック】

5歳女 マイコプラズマ肺炎
2歳男、4ヵ月男 ロタ(+)
1歳男 病原性大腸菌 01 VT(-)
1歳男 病原性大腸菌 0125 VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

9歳男 病原性大腸菌 01
2歳男、3歳女 ロタウイルス(+)

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザB型 7人

【知立市 宮谷クリニック】

今週に入りインフルエンザ見られなくなりました。

【西尾市 山岸クリニック】

カンピロバクター 7歳女
インフルエンザB型 7名

【西尾市 やすい小児科】

1歳男、5歳男 B型インフルエンザ
1歳男、2歳男、3歳男、4歳女 ロタウイルス(+)

【幸田町 とみた小児科】

マイコプラズマ肺炎 1歳6ヵ月女
感染性胃腸炎、溶連菌感染症、水痘が目立ちます。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

インフルエンザによる筋炎あり(5歳女、B型)

【豊橋市 野村小児科】

1～3類感染症の発生状況（愛知県）

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	岡崎市	26	女	3 / 15	3 / 17	3 / 25	O157	VT2(+)

細菌性赤痢

1	岡崎市	46	男	2月下旬	3 / 11	3 / 31		14週 報告分
---	-----	----	---	------	--------	--------	--	------------

全数把握の4類感染症の発生状況（愛知県）

後天性免疫不全症候群 2例（無症候性キャリア：1例、AIDS：1例）

アメーバ赤痢 1例

急性ウイルス性肝炎（E型） 1例

第10週(15年3月3日~3月9日)の4類感染症 (全国)

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去3年間の同時期の平均の2倍を超えた。都道府県別では、青森県(2.3)が前週の2倍、沖縄県(1.4)は10倍と報告数が多い。他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数は引き続き増加を続け、石川県(4.6)を始め5県で3.0を超えた。感染性胃腸炎の報告はわずかに増減しつつ幅広いピークを形成している。依然として宮崎県(25.3)、大分県(21.1)からの報告が多く、23の都道府県から2桁の報告があった。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は微増し、宮崎県(0.8)、福島県(0.6)、鹿児島県(0.4)、徳島県(0.4)からの報告が多い。成人麻疹も増加し、東京都(0.2)、千葉県(0.2)などの首都圏から約半数が報告されている。手足口病の定点当たり報告数は全国レベルでは多くないが、宮崎県(1.9)と福井県(1.6)からの報告が増えている。風疹は岡山県(0.4)からの報告がさらに増え、急性出血性結膜炎は長崎県(0.6)からの報告数が倍増している。流行性角結膜炎の定点当たり報告数もわずかに増え、鹿児島県(2.8)、高知県(2.3)、群馬県(2.3)からの報告が多い。水痘の定点当たり報告数はほとんど変化がないが、都道府県別で沖縄県(7.7)と宮崎県(4.4)からの報告が特に多い。インフルエンザは、10週ぶりに定点当たり報告数(9.84)が10を下回った。大阪府以西では減少の速度がゆるやかになった県が多いのに対し、関東地方では順調に減少している。都道府県別では、山形県(31.7)、秋田県(31.0)、佐賀県(30.8)の3県からの報告が多く、特に佐賀県は4週連続して増加を続けている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホ - ムペ - ジ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

